

# 九州地方整備局の事業進捗等について（河川事業）

別紙1

【前回評価時点】

事業名 (箇所名)	実施箇所	事業期間等	総事業費(億円) 上段:前回評価時 下段:現時点	事業を巡る社会経済情勢等の変化	主な事業の進捗状況	主な事業の進捗の見込み	コスト縮減や代替案等の可能性
番匠川直轄河川改修 事業	大分県佐伯市	令和6年度 ～令和35年度	約156 約210	<ul style="list-style-type: none"> <li>・想定氾濫区域内人口の推移は横ばいである。</li> <li>・平成21年度に「脇津留地区土地区画整理事業」が完成し、平成25年度には国際物流ターミナルの供用開始と佐伯弥生バイパスの開通、翌年度には東九州自動車道の開通により、九州東部の物流の効率化を支援するとともに産業や観光面での更なる発展が期待されている。</li> <li>・流域全体のあらゆる関係者が協働して水害を軽減させる治水対策、「流域治水」を計画的に推進するための協議・情報共有を行うことを目的とした、「番匠川水系流域治水協議会」を設置し、「流域治水プロジェクト」をとりまとめている。</li> <li>・番匠川では、川を中心とした住民団体の活動が盛んに行われており、防災意識の啓発活動をはじめ、行政と住民が連携した川づくりを実施している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・番匠川において、河道掘削、樹木伐採を実施中</li> <li>・番匠川下流蛇崎地区において、堤防耐震対策を実施中</li> <li>・番匠川支川久留須川において、河道掘削、樹木伐採を実施中</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・当面の整備として平成29年9月洪水での被害を受けた井崎川上流部の堤防整備、並びに資産が集中する番匠川下流の河道掘削及び河川管理施設の耐震対策等を実施するとともに、番匠川上流部及び支川久留須川についても上下流の治水安全度のバランスを考慮しながら整備を進めていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業実施にあたっては、河道掘削等による発生土について、築堤工事や側帯盛土、他行政工事に再利用する他、一般公募による民間事業者等への土砂提供を実施するなど、処分費等の縮減に取り組んでいる。</li> <li>・新技術・新工法等の積極的活用を図り、一層のコスト縮減に努める。</li> <li>・現計画(河川整備計画)については、地形的な制約条件、地域社会への影響、環境への影響、実現性及び経済性等を踏まえ、有識者や地域住民意見を伺い、策定したものである。</li> <li>・河川改修等の当面整備予定の事業については、その手法、施設等は妥当なものと考えているが、将来における社会・経済、自然環境、河道の状況等の変化や新たな知見・技術の進捗等により、必要に応じて適宜見直す可能性もある。</li> </ul>

# 九州地方整備局の事業進捗等について（河川事業）

別紙1

【前回評価時点】

事業名 (箇所名)	実施箇所	事業期間等	総事業費(億円) 上段:前回評価時 下段:現時点	事業を巡る社会経済情勢等の変化	主な事業の進捗状況	主な事業の進捗の見込み	コスト縮減や代替案等の可能性
遠賀川総合水系環境整備事業	福岡県 田川市、中間市、直方市、飯塚市、宮若市、嘉麻市、小竹町、桂川町、川崎町、糸田町	平成21年度～令和23年度	約53.5 約37.0	<p>・遠賀川は、川にふれることの出来る施設、場所が多くあり、河川空間を活用した住民が参加するイベントなどを通して多岐に利用されている。</p> <p>・中間地区は、平成27年に登録された世界遺産『遠賀川水源地ポンプ室』を巡る観光客や、なかまフットパス等の河川敷で行われる様々なイベントや釣り・スポーツを楽しむ市民の方々に広く利用されている。しかし、エリア全体を一体的に活用するためには、河川敷の通路を安全に周遊出来ない等、拠点間の回遊性に課題がある。また、現状の護岸や水辺に近づきにくく、河川敷へのアクセス路が無いこと等から、安全な水辺の利用が困難な状態である。</p> <p>・遠賀川水系エコロジカルネットワーク再生事業のモデル地区5箇所の整備が完了し、一定の事業効果を確認し流域での更なる取組推進を図るべく「遠賀川水系自然再生計画書(案)令和5年2月」の改訂を行っている。</p>	<p>■自然再生事業 遠賀川水系エコロジカルネットワーク再生のうち、既存5箇所の整備は完了し、現在モニタリング実施中。今回の変更で新たに追加する箇所について令和7年度より整備着手予定。</p> <p>■水辺整備事業 田川地区は、令和元年度より整備着手し、中流部、下流部の整備が完了し、現在上流部の整備実施中。中間地区は、令和4年度より整備着手し、現在も整備実施中。</p>	<p>・自然再生の遠賀川水系エコロジカルネットワーク再生では、整備が完了した箇所から順次モニタリングを実施している。平成25年度に下境地区が、平成30年度に御徳地区が、令和3年度に浄土橋地区の整備が完了し、整備後も「住民ワーキング」等による協力体制のもと維持管理を行う等、維持管理においても地域の協力体制が確立されていることから、今後も順調な事業進捗が見込まれる。</p> <p>・水辺整備のうち、田川地区では、整備が完了した中流部・下流部で地域住民で構成された維持管理のボランティア団体が組織され、地域住民が主体となり田川市と密に連携しながら利用と管理の両面を実践する等、地域の協力体制が確立されていることから、今後も順調な事業進捗が見込まれる。</p> <p>・一方、中間地区でも、整備前の令和元年度に社会実験を行い、現地での具体的な整備内容の検討を行う等、地域の協力体制が確立されていることから、今後も順調な事業進捗が見込まれる。</p>	<p>・近年の技術開発の進展に伴う新工法等の採用による新たなコスト縮減の可能性等を探りながら、事業を進めていく方針である。</p> <p>・遠賀川水系エコロジカルネットワーク再生の整備内容については、「遠賀川水系エコロジカルネットワーク検討会」や「住民ワーキング」等で議論を重ねた上で具体的な整備内容を検討しており、河川と堤内地とのネットワーク形成や魚類等の生息場・避難場・産卵場としての機能を考慮したコスト面でも優れた整備内容となっており、現計画が適切と考えている。</p> <p>・田川地区の整備内容については、「田川の宝！彦山川を創る会」や「上流部会」・「中流部会」・「下流部会」での議論や利活用の試行実践により必要性を検証しながら具体的な整備内容を検討しており、河川管理面、河川利用面等を考慮した上での適切な整備内容になっており、現計画が適切と考えている。</p> <p>・中間地区の整備内容については、「遠賀川かわまちづくり推進協議会」、「遠賀川かわまちづくり作業部会」で議論を重ねた上で整備内容を検討しており、河川管理面、河川利用面等を考慮した上での適切な整備内容となっており、現計画が適切と考えている。</p>